

二〇一九年度

早稲田大学大学院文学研究科

入学試験問題

【修士課程】

一般外国語

日本語

※解答は別紙(縦横書)

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

近年、日本社会において、様々な意味で「文化」の占めるウエイトが大きくなっているが、それは経済成長の **A** と無関係ではない。

戦後、我が国はめざましい復興を ①遂げ、**B** もアメリカに次ぐまでに成長した。その過程を見ると、終戦時、七二〇〇万程度だった人口が、東京オリンピックの一九六四年に約九七〇〇万人になり、八四年には初めて一億二千万人を超える。この間、「もはや戦後ではない」が流行語になった五六年度から第一次オイルショックが起きた七三年度の経済成長率は、平均九・一パーセントで、七四年度から九〇年度は平均四・二パーセントである。

四〇年代後半から五〇年代前半にかけての人口増加率は、平均すると一〇パーセントを超えており、高度成長期からバブル期にかけての労働力人口の中核を占めているのである。実は、この人口爆発にも近い人口増加という ②ゲンショウが日本の高度経済成長を実現させた最大の **B** であった。

世界的にみて、人口と **B** は明確な **C** 関係にあり、ヨーロッパ諸国などは人口数の順位と **B** の順位が全く同じである。単純に人口が多いと **B** も大きくなる。

その人口が減っていくことは、すなわち経済力の低下を意味している。 **P**、これながらも経済発展のため、あるいは成長維持のために様々なイノベーションや工夫がなされていくであろう。しかし、人口減少によるマイナスを完全に **D** することは難しい。

このような近未来が控えている現在、日本経済の **X** に心がける一方で、我々の生活の質をいかに維持・向上させるかが重要な課題として浮上しているのである。かつてのような経済成長が望めなくなり、日本人が追求する「豊かさの」中身が **Y** から **Z** へと転換しつつあるといってもいい。いわば、住む家はこれ以上、大きくならないけれども、そこを **q** 上質な空間にしたいと考える人が増えるということである。この生活の質の向上にとってたいへん大きな役割を果たすのが文化なのであり、それゆえに「文化立国」を考えていかねばならないと筆者は考える。というか、可能な選択肢として「文化立国」しか残されていないのである。とはいっても、この「文化」が指し示す範囲はたいへんに広範で、その定義を求めるのは **r** ③難しいので、大胆に単純化する。

たとえば、**s** 生活上の不足はないけれども、無駄がなく機能的ながら殺風景な居室にいたり、白いだけの壁にお気に入りの絵の一枚も掛けたくなくなるであろう。収納たんの上には孫たちの写真を飾りたくなるだろうし、人によっては部屋に音楽を流すかもしれない。絵や写真や音楽があるだけで、そこで暮らす人たちは心 ④穏やかになり、気持ちがいい。そういうふう衣食住の **E** に上乗せする形で日々の暮らしをより心地よく、より豊かにしてくれるものを「文化」と考えたいと思う。

付け加えるなら、芸術作品や娯楽だけでなく、それぞれの地域で人々に受け継がれている生活習慣や行動様式などもまた文化である。生活習慣や行動様式は、そこで暮らす人々がスムーズに、心地よく過ごすための **F** として形成されたものだからである。従って、

人間の⑤営みの中で文化活動が占める割合はたいへんに大きいものであり、社会活動の最も主要な部分を占めている。

では、そうした文化をなぜ「文化立国」という大仰な言葉を用いてクローズアップさせるかという点、近年、国や社会の中で文化の存在価値が大きくなっているからに他ならない。そして、それは日本だけでなく、世界的な傾向である。

文化の存在を大きくした重要な要因の一つは、グローバル化である。市場経済から先兵として入り込み、政治や文化をまきこんで一定の基準や価値を⑥強いるグローバル化は、⑦その反作用として多くの国や地域で自国文化への人々の⑧シジを増幅させた。つまり、グローバル化は世界各地で育まれてきた文化を改めてあぶりだす役割を果たした。

文化というのは、ある意味で⑨水や空気みたいなもので、その文化の中で暮らしていると、そのよさやありがたみを意識することは少ない。しかし、他の文化が入り込んで、平穏な心地よさが揺さぶられると、自らの文化を強く意識するようになる。グローバル化は世界各地で文化への覚醒を⑩促したのである。

グローバル化が各国文化の存在感を高める一方で、先進国においては社会の成熟化が文化の価値と役割を高めていることにも注目しなければならない。

成熟社会とは、政治・経済活動と文化がバランスよく定着している社会を指すと筆者は考えているが、経済活動と文化を比べると、あるGな違いがある。それは文化活動の方がはるかに係累が多いことだ。係累が多いとは、例えばこういうことである。私たちは家の近所で知り合いに会うと、ほほ笑んで「こんにちば」と挨拶を交わす習慣が身についている。この近所との挨拶一つにもいくつもの意味がある。相手に対する心情的Hご近所どうし仲良くやりましょうというメッセージの⑪コウシン、さらに挨拶を交わすことで自分も地域共同体の一員であることを確認しているともいえる。

文明が起きる以前、一族で集団を構成していた狩猟⑫サイシユウの時代には、こうした挨拶の習慣はなかったに違いない。他者と一定の距離を保ったまま交わす儀礼的挨拶は、多くの他人と生活共同体を営む社会になってきたはずである。

このように、挨拶というのは社会の高度化が作り出したものと考えられ、今日では近所と交わす挨拶にも色々な意味が含まれている。t文化は、社会が高度化、あるいは成熟化していくにつれて複雑化し、多くの係累を連ねるようになる。もともと文化はそうした性質をもっている。

複雑化した社会は、その構成員である人々にストレスをかけるが、それを和らげるためには、文化の役割が重要になってくる。様々な係累を連れ、人々を心穏やかにする文化は、成熟社会があちこちでたてたるきしみを柔軟に吸収する力を持つ。政治・経済活動と文化がバランスよく定着することが成熟社会であると述べたが、成熟社会がうまく機能していくためには、文化的⑬ジュウジツを伴っていなければならないのである。

これまで経済偏重でやってきた日本では、文化のもつ力や自国文化のすばらしさが正当に評価されているわけではなく、また十分に知られているわけでもない。期せずしてグロ

「バル化によつて存在感があぶりだされ、本格的な成熟社会を迎えてその重要性を増している文化の力というものを私たちはもつと信じていいのではないだろうか。

(青柳正規「文化立国論」による)

注 GDP…国内総生産。

イノベーション…技術革新。

問一 空欄 A・B・C・D・E・F・G・H に入る最も適切な語を、それぞれ次のア～クの中から選び、その記号を書きなさい。(同じ記号を二度以上、使わないこと。)

ア 顕著 イ 充足 ウ 相関 エ 知恵 オ 鈍化 カ 表明
キ 補完 ク 要因

問二 傍線部①③④⑤⑥⑩の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問三 空欄 p・q・r・s・t に入る最も適切な語を、それぞれ次のア～オの中から選び、その記号を書きなさい。(同じ記号を二度以上、使わないこと。)

ア つまり イ とりあえず ウ なかなか エ なるべく オ むろん

問四 傍線部②⑧⑪⑫の片仮名の部分を漢字で書きなさい。漢字は現在の日本語で用いられている標準的な字体によって、楷書体で丁寧に書くこと。

問五 空欄 X・Y・Z に入る最も適切なものを、それぞれ次のア～カの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 質的維持 イ 質的向上 ウ 質的低下 エ 量的維持 オ 量的拡大
カ 量的縮小

問六 文化の存在を大きくした重要な要因の一つとしてグローバル化を指摘したうえで、傍線部⑦では、それをグローバル化の「反作用」であると述べているが、なぜ「反作用」とされているのか、わかりやすく説明しなさい。

問七 傍線部⑨「水や空気みたいなもの」とは、この場合、どのようなことをたとえているのか、わかりやすく説明しなさい。

(以上)

問一

G	A
H	B
	C
	D
	E
	F

小計

問二

⑥	①
いる	げ
⑩	③
した	しい
	④
	やか
	⑤
	み

問三

p
q
r
s
t

問四

⑬	②
	⑧
	⑪
	⑫

受験番号
氏名

合計得点

問五

X
Y
Z

小計

問六

--

問七

--

受験番号
氏名